令和３年度　第２回学校運営協議会議事録

日時：令和３年10月16日（土）14:00～16:00
場所：大阪府立茨木高等学校　視聴覚教室
出席者：【　委　　員　】添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、乾麻里

【校長・事務局】山上浩一、山脇和美、門野義彦、本管克江、森登紀子、森佳希、
籔麻智子、都浩司

１．校長挨拶
２．議事
　① 本年度の各取組みについて（中間報告）
　② 教科書選定結果について
　③ その他
　④ 次回運営協議会日程

＜校長挨拶＞

・学校の近況を報告

① 緊急メールについて
② これまで実施した主な行事について
　体育祭：9/7午後　演技披露（応援団・マスゲーム・マスコットアピール）のみ
　　無観客で実施。
　遠足：10/5　全学年で実施。　オータムセミナー：10/7　2年生で実施。
③ これから実施予定の主な行事について
　文化祭、宿泊野外行事、妙見夜行登山等、新型コロナウイルス感染症の状況等も考慮しながら、実施予定である。

＜事務局からの「議事」に係る説明＞

① 本年度の各取組みについて（中間報告）

・高大連携等

昨年度に引き続き、中止となったプログラムもある。オンラインを利用してのプログラムも対面で実施されるプログラムも、随時紹介していく予定であり、生徒たちにはこれからも積極的に参加してもらいたい。

・学問発見講座・卒業生講座

学問発見講座は7月に14講座で実施し、478名の生徒が参加した。学問に対する興味・関心を育て、視野を広げる機会となり、事後のアンケートでは、満足度・理解度ともに高

い数値であった。また、卒業生講座は10月23日に10講座で実施予定である。どちらの取組みにおいても、このような社会状況の中、講師の方々が快く対面での実施に応じてくださったことをたいへんありがたく思っている。皆様のご協力に支えられて取組みが実施できていることを実感している。

・76期生スプリングセミナー・北辰プロジェクト

今年度の「スプリングセミナー」は、5月29日に実施した。当初は1年生全員が京都大学を訪問して実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本校体育館での実施となった。

京都大学大学院薬学研究科の高倉喜信教授（高28回卒）にリモートでの記念講演をしていただき、その後のパネルディスカッションは高倉先生と今西未来先生（京都大学化学研究所 助教）はリモート、大学院生と大学生は対面という形式で実施した。初の試みであったが、生徒たちのこれからの主体的な学び、学校生活への意欲に資するものとなった。

・75期生オータムセミナー

10月7日に実施した。九州大学大学院農学研究院の石野良純教授（高28回卒）にご来校いただき、「CRISPER～その発見からゲノム編集技術まで」の演題で講演をしていただいた。課題研究の開講式として、研究に取り組む姿勢とその進め方、心構えとともに、これからの将来について考える機会となった。

・リーダー育成プログラムⅠ

今年度も、緊急事態宣言等でなかなか部活動ができない期間が続いたが、現在、運動部、文化部合わせて生徒全体の入部率は約 105%（兼部を含む）である。リーダー育成プログラムⅠは、それぞれのクラブ代表者が参加する会議で、本来は生徒主体による各クラブの実践報告や意見交換が中心となるのだが、今年度はここまで、ほとんどが新型コロナウイルス感染症への対応等についての注意喚起となっている。今後は、可能な限り、生徒主体の会議となるようにと考えている。また、専門家を招いての講演会も予定している。

・リーダープログラムⅢ

クラブサポートは、新型コロナウイルス感染症の影響により、医療機関から理学療法士を派遣していただくことが難しく、実施できたのは、7 月の「熱中症予防指導」のみである。今後も、状況を踏まえながら、可能な範囲で実施していく予定である。

・茨木ブラザーズ＆シスターズプログラム

12月18日に実施予定である。1年生全員が、大阪大学の留学生との交流を通じて国際理解を深める取組みであるが、今年度も大学の方針により、リモートでの実施となる予定である。

・長期留学生の受入れ

昨年の12月から今年7月までの受入れとなった。例年は第2学年での受入れとなるが、年度を超えての受入れとなるため、昨年は第1学年で、引き続き今年は第2学年での受入れとした。さまざまな制限がある中での学校生活であったが、留学生にとっても、本校生にとっても、たいへん有意義な学習の機会となった。尚、現在のところ、今年度新たに長

期留学生を受け入れる予定はない。

・英語イマージョンプログラム

12 月 25 日・26 日の二日間で実施予定。英語のネイティブ講師による授業を少人数で集中して受けることにより、英語運用能力を伸ばすことを目的としたプログラムである。

・Beyond__ｉプログラム

令和４年３月８日から 11 日の４日間で実施予定。日本国内の大学に正規留学しているさまざまな国出身の大学生・大学院生と集中的に議論することにより、ＳＤＧｓ についての理解を深め、英語で議論することを通じて、その解決策を考えるプログラムである。新型コロナウイルスの影響で、海外への宿泊野外行事が実施できなくなったことを受けて、昨年度より始めた取組みである。学びをたてにつなぐために、今年度４月の「学びの報告会」では、全校生徒へ向けて、昨年度参加した生徒が充実した学びの機会であったこと等を報告した。

・第１回授業アンケート

今年度も７月と 12 月の２回実施する予定である。７月に実施した第１回授業アンケート結果を資料に掲載している。

② 教科書の選定について

次年度入学の 1 年生より新カリキュラムとなるため、教科書もそれに沿ったものを選んでいる。後ほど、実際にご覧ください。

③その他　特になし

＜質疑応答＞

委　員:学校内の Wi‐Fi 環境、ネットワークの環境は、その後どのようになっているのか。

事務局：現在、GIGA スクール構想、生徒１人１台端末の活用に向けて、各ＨＲ教室といくつかの特別教室で登録した Chromebook を使用する場合については、ネットワークへの接続が可能になっている。一方で、それ以外の場所では、やはり久敬会でレンタルしていただいている３台の Wi－Fi を、工夫しつつ使用させていただいているところである。

委　員：妙見夜行登山について、今年度は実施の方向であるのは良かった。

事務局：例年と同様の内容での実施は難しいと思われるが、感染リスクを低減する工夫をして、なんとか実施したいと考えている。昨年度実施できなかったので、行事の継承ということからも、２年連続の中止は避けたいと考えている。

委　員：１人１台端末についてはどのような状況か。

事務局：生徒に配付し、各自で保管している。今後臨時休業となった際には、生徒は自宅で、今回配付した端末を活用してオンライン授業を受けることが可能になった。

委　員：昨年度の一斉臨時休業の際もオンライン授業を実施したと聞いているが、今後実

施方法等に変化があるのか。

事務局：昨年度は、Google Classroom に動画を置き、生徒はそれを視聴し、それぞれの講座の Classroom へ課題の提出や質問を行うという形式であった。今年度、９月初めの臨時休業時、３年生については授業日数確保のため、時間を指定して、時間割に従って Google Classroom の動画を視聴した後、チャット機能を利用して、担当教員及び受講生徒間で、質問や意見交換を行った。今後、全学年とも短期間の休業の場合はこのような方法でオンライン授業を行うことになる。

委　員：昨年度は、子どもはスマホでオンライン授業を受けていた。今回、１人１台端末のおかげで画面が大きくなったので、視聴しやすくなるだろうと思われる。また、チャット機能を利用してのやりとり等は、今後社会へ出たときにも生かせるのではないかと思う。オンライン授業では、いろいろな先生の授業の Classroom に入ることで、よりいっそう教科科目への興味・関心が高まったというメリットもあった。

委　員：新型コロナについては、先生方も生徒もかなり大きな影響を受けていると思われる。新型コロナの感染状況の「波」に合わせた対応、システムが必要なのではないか。

事務局：例えば、授業に関しては、授業日数の確保という意味でも、オンライン授業で対応している。

委　員：オンライン授業を実施するにあたっては、学校でもかなり苦労したと思われる。IT の専門家を各学校に配置してもよいのではないかと思う。また、今後もオンライン授業のよいところを残し、対面のリアルな授業でしかできないところは対面でやっていく、というような工夫が必要であると思う。

委　員：茨高では、以前宿泊野外行事の取組みで、現地との「テレビ会議」を行っていたと記憶している。「テレビ会議」というと当時は特別な感じがあったが、新型コロナの影響で、今は「zoom」での会議も日常的に行われている。このように、今後の可能性、という点で何か発見したようなことはあるか。

事務局：「オンライン」を利用することで、さまざまな「垣根」が低くなったように思われる。例えば、高大連携事業の取組みでも紹介した「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」では、高校生がノーベル賞受賞者と直接やり取りをすることが可能になる等、オンラインならでは、と言えるのではないか。また、課題研究等において、専門家の方の助言をいただく際にも取り入れていくことができるのではないかと思う。

委　員：従来の取組みにおいても、もう一つの可能性、としてオンラインが考えられるということになる。

委　員：オンラインを利用しての取組みをするにあたり、必要があれば、久敬会に応援を求めてもよいと思う。

委　員：今年度の取組みについての説明の中で「学びをたてにつなぐ」という言葉があっ

たが、これは茨高の一つの特徴であり、たいへんよいことである。「生徒は先輩の背中を見て学ぶ」ということである。

事務局：昨年度は「密」を避けるということで、学びの報告会も放送で実施したが、やはり放送ではなかなか伝わらないものがあった。今回は全校生徒に向けて体育館でのプレゼンテーションとした。

委　員：なんとかしようとつなげていくことで次につながっていくのだと思う。

委　員：妙見夜行登山等、茨高の行事は、今までほうっておいてもつながっていたものである。しかし、今は、昨年度中止となった行事等もあり、先生方の手助けが必要なのではないかと思う。

③　次回学校運営協議会の日程

第3回学校運営協議会　令和4年2月19日（土）　14：00～